

本紙特別企画 リレーエッセイ執筆者3人による新春放談

昨年12月、リレーエッセイを担当して頂いている小川健さん（八幡山高齢者活動・移動支援施設利用者）、齋藤美樹さん（車両利用者）、篠原博美さん（車両利用者）にお集まりいただき、2017年を振り返り2018年に思いをさせ、諸々語って頂きました。編集委員として中澤俊雄さん、小林廣子さん、そして私、荻野陽一が出席しました。

荻野：進行役をさせていただきます。まずは自己紹介とミニキャブとの関わりをお話し下さい。

小川：八幡山3丁目在住です。ミニキャブさんのリビングを利用させて頂いて、中国語の勉強や元理事長の碓井さんが主宰していた「短歌と俳句の会 かぶえてらす文芸」にも参加させて頂いてました。今は施設工事中ということで、仲間のご自宅にお邪魔して、活動を続けています。よろしくをお願いします。

荻野：続いて齋藤さんをお願いします。

齋藤：ミニキャブさんを利用して今度の2月で3年になります。最初は介護タクシーさんを利用していたんですけど料金が高いんです。ミニキャブさんはお安く非常に良心的だなあと思います。あと、旅行とか面白そうな企画があって、アットホームな会だなあと感じて気に入ってしまいました。会報ではスマイリーMサイトウという名前で書いてます。今、リハビリ兼ねてウクレレをやってまして、リハビリ仲間の皆さんにハンドルネームというか芸名を付けて頂いたので、その名前で通ってます。

荻野：ありがとうございます。では篠原さん。

篠原：篠原と言います。博美と書いて“ひろよし”と言います。齋藤さんと同じで僕も今度の3月で入会3年になります。2014年の9月に脳卒中になり6か月後退院し、最初はミニキャブさんを利用していたんですけど、急にお願いすることが多く断られるんで現在は「そとでる」とさんと併用でお願いしています。病気前は建築設計事務所を運営していましたが、同窓生が設計士の眼で見たバリアフリー状況を発信したらどうかとNPOを立ち上げてくれたのはいいんですけど、誰も協力してくれないんで今私一人で活動しています。まずは、顔を売ろうとおもいあらゆるとこへ顔を出してます。

荻野：会報に3ヶ月に1回ペースで、書いて頂いていて、何か感じることはありませんか。

齋藤：何を書こうかと迷いますね。まあ、自分の持ち味でいいのかな…なんて、それしか書けないんでね。そういうのは思います。

小川：会報の趣旨からすると障害者の周りにあるようなお話を書くのが理想的なんでしょうけど、私自身障害者の制度とか知らないですし書けないので、申し訳ないなあと思っています。普段感じていること、身近なことしか書けないんです。

篠原：私はサブタイトルを“106センチの目線の旅”としてますが、車椅子は丁度小学3年生くらいの目線なのです。目線が変わっただけで道に迷ったり色々な不便や危険があります。車椅子で行った先の不便さ危険、楽しさを皆さんに伝えようという意識で投稿しています。

荻野：さて、2017年を振り返っていかがでしたか。では齋藤さんから。

齋藤：1つは都営住宅が当たって安い所で家族が皆で住めるようになったこと。2つ目はデザインの学校へ通いだしたことです。就職のため手に職をではないですけど…。3つ目はウクレレです、ボランティアで福祉施設でやらせて頂いています。4つ目は車イスからちょっと脱皮して杖で少し歩けるようになったこと。これが本当は一番肝心なことで、私自身の中でちょっと明かりが見えてきたかなっというのが2017年を振り返ってですね。

荻野：小川さんはいかがですか？

小川：感動したのは、将棋の藤井聡太四段の29連勝です。謙虚さや言葉遣い、学校で覚えるんじゃないかと本を読んでいるんじゃないかと感心しました。個人的には健康年齢をいかに持続させるかということで、生涯大学に入学しました。生涯大学には色々な講座があるんですが、私は「社会と歴史」を選択しています。

荻野：では篠原さん、どうぞ。

篠原：大忙しの1年間でした。まず様子見で2つのファンドに応募したのですが簡単に採択され助成金をもらえ活動しなくてはいけない羽目に（笑）活動目的は高齢者・身障者を外に出し元気を取り戻してもらうこと、外に出ることによって街がバリアフリーになる、この2段階構えで活動しています。車椅子になる前は、バリアフリー法とか、ハートビル法とか、数字をクリアすれば良いと思ってました。自分が車椅子になって施設を使ってみると、何も考えずただ数字をクリアするだけの設計に良く出会います。有名な設計者でもいっぺんで嫌いになってしまいます。

荻野：続いて、2018年に向けてこんなことをやりたいと思っていることをお聞かせください。では、今度は小川さんからお願いします。

小川：個人的なことしか言えないんですが、生涯大学を無欠席で卒業したいんです。そのためには、健康であることが前提ですので自己管理を徹底して、生活していきたいなあと思います。マイファーストでやっていきます。

荻野：ありがとうございます。では、齋藤さんお願いします。

齋藤：1つは、今、学校に通っていますから来年あたりに就活で仕事がみつかるといういなあとと思います。もう1つはウクレレでボランティアでいろんな施設をまわっておりますので、施設の中のイベントはもちろんですが、そこから一歩出て温泉地やデパート、駅等でのイベントで演奏したいです。一般の方に聞いてもらう機会が出来たらいいなあというのがありますので。以上です。

荻野：頑張ってもらいたいと思います。では、篠原さんお願いします。

篠原：私も齋藤さんと同じで、就職はしたいんだけど65じゃあ無理でしょうから。でも、自分の生活費ぐらいいは何とかしたい。だから一番の目標は、NPOで自分の生活費を捻出するようなことを考えて行こうかなと思ってます。それと2020年に向けて2つ目標があって、1つは今の活動は2020東京オリパラ絡みで追い風が吹いていると思うので、どんどんやっっていこうというのと、もう1つは、2020年の2月2日が私が退院して5年になるんです。だから、その日を快気祝いの目標に車椅子から離脱し、飲み屋に行きたいなあ。

齋藤：そこですか。そこにいきましたか（笑）。お供しますよ。

荻野：最後にミニキャブに対して新春にあたってメッセージを頂けますか？篠原さんからどうぞ。

篠原：私の場合は、急に車の手配を頼んだりして断られることが多いんですけど、よく聞いてみるとドライバー不足でうまくまわっていないということもあるそうなので、是非システムを変えてでも、ドライバーを確保してもっとうまくまわるようにしたらいいんじゃないかなと思ってます。

荻野：何かいい方法ありませんか。

篠原：お客さんを獲得するようなアイデアはいっぱいあるんですけど、有償ボランティアにしてその人たちの給料どうやって捻出するのはわかりません。私は儲けるのが非常に苦手なもんで。

荻野：そうなんです、NPOはどうも儲けるのが苦手な方が多くて…。

篠原：同じボランティアでも少し生活の足しぐらいになるといいと思うんですよね。

荻野：ありがとうございます。では、齋藤さん、メッセージをお願いします。

齋藤：ちょっと篠原さんのと話しがリンクしちゃうんですけども、たまたま今年の8月、9月がミニキャブの予約がとれなくて、私は他でっていうのをあまりやったことがなかったので、探すのが大変だったのですけれども、聞くとところによると、ちょっと今、運転者が辞めたりだとか、運転出来る時間が取れなくなっている人が出てきちゃって、今対応が難しい面もありますので、すみませんと丁寧に謝っていただいたんですね。で、よく考えたら私たちよ

りずいぶん大先輩の方たちが運転していて、1回仕事をリタイアされた方がまた、65は若い方だと思うんですけど70代から80ぐらいの方が運転されてることが多いと思われまので、なにしろ皆さんへのメッセージは身体を大事にしてください、なんですけど、本当に自身の身体のこと健康のことあると思いますのでそういった意味では、これからの寒い時期は特にいろんな病気になりやすい時期でありますので身体に留意して、また、お会いした時にはドライバーのみなさんに楽しいお話を聞かせて頂けたらなあと期待してます。以上です。

荻野：そうですね、無理すると事故につながったりしますのでね。

齋藤：ボランティアでやってるから余計大変だと思います。

荻野：ミニキャブは80歳が定年なんです。社会通念上で行くと高いなあと思われまんですけど、うちは75ぐらいが主戦力ですからやむを得ない事情があります。

荻野：では、小川さんお願いします。

小川：私は運行業務の方にはコメントできないんですが、リビングの利用でお世話になっていて、申し込む時にいつも台帳に記入するんですけど、非常に地域の方にミニキャブは貢献しているということは良くわかりました。だから引き続き頑張って欲しいです。

中澤：それは、ここ10数年積み上げてそうだったんですが、今回の工事で半年、八幡山を離れるので会場がないため活動を休止している団体も多いんです。そういう意味では向こうに帰った時に、すべての団体が復活する保証は何にもなくて少し減るかもしれない。だからそのタイミングで新しい団体を考えて活動の中に組み込んでいくか、来年はちょっと、曲がり角になるのかもしれないですね。

小川：広報っていうのは経費もかかって大変でしょうけど、何らかの方法でますます地域貢献が高まるようになっていってほしいなあと思ってます。

中澤：そういう時は是非、小川さんのお知恵もお借りしたい。やっぱり、あそこに活動しておられる方がこんな風に活動したいとか、こんな注文があるというのは当たり前だけど、こんなことやってみたらどうか、参加下さる方からの発言というのはとても意味深いものがあるはずですよ。私たちが頭の中でああやる、こうやるっていうよりは、あそこにこんなことがあったら参加したいなという思いを持っておられる方の話を聞いて、それを実現していくということが重要だと思います。

荻野：色々激励いただいて、ありがとうございます。40周年に向けてまた新たな一歩を踏み出す2018年にしていかなければいけませんね。本日はお忙しいところお時間を作って頂いてありがとうございました。